

島根県立
古代出雲歴史博物館
NEWS

2016.JAN



CONTENTS

- 2・3 (特集) 遷宮 -受け継ぐところとかたち 増浦行仁「神の宮」-
- 4・5 学芸員通信/展覧会通信
- 6・7 れきはく通信/古代セン通信
- 8 れきはくごよみ

特別展

遷宮

受け継ぐところとかたち

増浦行仁 神の宮



平成28年3月25日金
↓
5月18日水

特別展

遷宮 ―受け継ぐところとかたち・増浦行仁「神の宮」―

開催期間：平成28年3月25日(金)～5月18日(水) 休館日 4月19日(火)

開催場所：島根県立古代出雲歴史博物館 特別展示室

開館時間：9:00～18:00

3月25日(金)は特別展開会式のため特別展示室のみ10:00開場となります。

主 催：特別展 遷宮「受け継ぐところとかたち・増浦行仁「神の宮」」実行委員会
(山陰中央テレビジョン放送株式会社、島根県立古代出雲歴史博物館、ミュージアムいちばた)

出雲大社本殿（国宝）などの建造物は信仰の象徴であるとともに、島根の歴史・文化を物語る貴重な文化財です。これまで定期的に修理が施されて受け継がれてきており、また、後世に受け継いでいかなければならないものです。

そこで平成28年3月に「平成の大遷宮」の諸事業が完了することを機に、あらためて出雲大社の造営の歴史を振り返るとともに、「平成の大遷宮」の保存修理の内容を紹介します。

さらに、伊勢神宮の式年遷宮や「平成の大遷宮」の撮影を行ってきた写真家 増浦行仁氏の写真を通して、遷宮に関わる人々の心情に触れます。

プロローグ 遷宮とは

神社などの建造物は木造建築が多いことから、定期的に修理がなされ遷宮（遷座祭）が行われます。遷宮では、すべてのものを更新することによって、若返った大きな力で加護されることが祈念されます。さらに定期的に遷宮がなされることによって様々な技術も継承されていきます。

第1部 出雲大社の遷宮

古代の造営以来、出雲大社は幾度かの造営・遷宮を経ていきます。今回の展示では、寛文度の造営の参考とされた宝治度の造営、正殿造の本殿への復帰が実現された寛文度の造営、出雲信仰が全国に広がる契機となった延享度の造営に焦点を当て、出雲大社の造営の歴史を紹介します。



出雲大社并神郷図(部分拡大)(重文・千家家)



杵築大社近郷絵図(県指定・北島家)



杵築大社境内絵図(県指定・千家家)

第2部 受け継ぐかたち―遷宮・落慶と保存修理―

「平成の大遷宮」にあたり、国宝本殿など多くの建造物の保存修理が行われました。保存修理では基本的に改変が加えられず、「かたち」が後世に継承されていきます。文化財建造物の保存修理について、「平成の大遷宮」をはじめ、佐太神社など県内の主な事例を取り上げます。

第3部 受け継ぐところ―増浦行仁「神の宮」―

写真家 増浦行仁氏は、遷宮を蘇りの儀式と捉え、そこに宿る精神性を重視しながら、出雲大社や伊勢神宮の遷宮の撮影を行ってこられました。ここでは出雲大社を中心に、氏の写真を通して遷宮に関わる人々の「ところ」を紹介します。

担当学芸員による見どころ紹介

延享本殿御簾 江戸時代（18世紀） 北島家



延享度の造営遷宮に際して調べられたと考えられる出雲大社本殿の御簾です。内殿にかけられていたものと想定されます。縁には八雲や龍の文様、瓔珞には大社神紋の二重亀甲剣花菱や桐などの文様が用いられています。

出雲大社本殿木形(模型) 江戸時代(17世紀) 出雲大社



寛文度の本殿を継承させていくために、規範として制作された模型です。屋根は左(西)面は流し板屋根、右面は木舞まで表され、檜皮葺の下地葺としての流し板屋根が寛文度まで遡ることがわかります。

またこの模型は分解も可能であり、構造の検討用としても用いられた可能性があります。

出雲大社遷宮御神輿 明治時代（明治14年） 出雲大社



出雲大社の明治14年（1881）の遷宮の際に御神体を遷すために用いられた御神輿です。

「平成の大遷宮」が行われるまで、本殿東側の縁床に置かれていました。

特別展関連イベント

■関連講座①

平成28年3月26日（土） 13:30～15:00

「出雲大社の建造物保存修理」

講師：岡 信治 氏

（公益財団法人 文化財建造物保存技術協会・国宝出雲大社本殿ほか22棟設計監理事務所長）

■関連講座②

平成28年4月9日（土） 13:30～15:00

「寛文度の造営遷宮と境内の一新」

講師：山崎裕二 氏（いづも財団）

■関連講座③

平成28年4月23日（土） 13:30～15:00

「延享度の造営と出雲信仰」

講師：西岡和彦 氏（國學院大學教授）

【関連講座共通】

場所：鳥根県立古代出雲歴史博物館 講義室 各定員：100名 参加費：無料（要申込）

申込方法：電話、FAX、ホームページのイベント参加フォームのいずれかでお申込ください

特別展ギャラリートーク

■ギャラリートーク①

増浦行仁氏による「神の宮」写真展解説

平成28年3月26日（土） 10:00～11:00

■ギャラリートーク②

平成28年4月9日（土）・4月23日（土）

学芸員による展示解説

いずれも11:00～12:00

※時間までに特別展示室入口にお越しください。

※特別展観覧料もしくはミュージアムパスポートが必要です。



28年度 企画展紹介

島根県立古代出雲歴史博物館 学芸部長 野 克 之

平成28年度に当館で開催する予定の展覧会について紹介します。春季（3月～5月）に開催する展覧会が、特別展「遷宮－受け継ぐところとかたち・増浦行仁「神の宮」－」です。いよいよ本年3月に出雲大社の『平成の大遷宮』の諸事業が完了します。そこで、あらためて、今までの出雲大社の遷宮の歴史や、今回の遷宮に伴う修理で判明した出雲大社の特徴などを紹介します。さらに今回の展覧会では、出雲大社と伊勢神宮の遷宮の写真撮影を行ってきた写真家増浦行仁氏の写真も展示します。出雲大社の遷宮について、より深く理解していただける展覧会です。詳しくは本誌2～3ページをご覧ください。

夏季（7月～9月）には、企画展「いわみもの」を開催します。「いわみもの」という言葉は今回の展覧会のために作った造語（新語）です。石見焼が展示の中心ですが、それだけではなく、石見の豊かな土地の恵みと「石見人」の手で生み出された様々なものを「いわみもの」と表現しました。手仕事から作り出された様々な「もの」に関心のある方にぜひ見ていただきたい展覧会です。詳しくは本誌5ページをご覧ください。

秋季（10月～11月）には、特別展「日本のわざと美」展を開催します。これは文化庁と当館が主催で開催する展覧会で、伝統的な工芸技術分野において、これまでに認定された重要無形文化財保持者（人間国宝）の作品をはじめ、制作過程を示した工程見本の他、用具や材料の製作・生産など、文化財を支える選定保存技術の関連資料などを展示いたします。我が国の工芸技術の粋を極めた、人間国宝の「わざ」が生み出す造形美をご堪能いただけます。

冬季（12月～1月）には、お正月にあわせて常設展の期間限定展示（今までは特集展という名称でした）として「めでたい！」展を開催します。当館の膨大な館藏品や寄託品から、「めでたい！」をテーマとした作品を選びすぐって展示します。ぜひ会場でお気に入りの作品を見つけてください。

最後になりましたが、28年度末（29年3月）に始まる展覧会も紹介します。企画展「出雲国風土記とその世界展（仮称）」です。島根県古代文化センターでは、長年に渡って『出雲国風土記』の調査研究を実施しています。その研究成果に基づく展覧会で、29年3月に開館10周年を迎える古代出雲歴史博物館の開館10周年記念展としても位置づけています。

それぞれの展覧会は、会期が近づきましたら本誌で詳しく紹介します。28年度もお客様に満足していただける展覧会を揃えています。ぜひ会場に足をお運びください。お待ちしております。

古代出雲歴史博物館 企画展スケジュール 2016

■特別展

遷宮

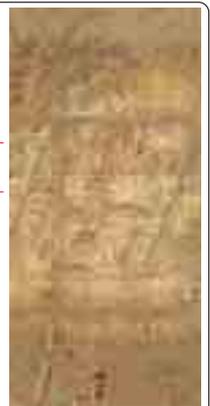
－受け継ぐところとかたち・
増浦行仁「神の宮」－

2016年3月25日(金)～5月18日(水)

※会期中の休館日/4月19日

平成28年3月に出雲大社の『平成の大遷宮』の諸事業が完了することを機に、あらためて出雲大社の遷宮の歴史を紹介するとともに、『平成の大遷宮』の保存修理の内容、保存修理によって明らかになった文化財建造物としての出雲大社の特徴を概観します。また、今回の出雲大社の遷宮をきっかけとして関心が高まった文化財としての建造物の保存修理について、県内の主な事例を紹介します。

さらに、仮遷座祭、本殿遷座祭など出雲大社『平成の大遷宮』の撮影を行ってきた写真家・増浦行仁氏の写真を通して、遷宮に関わる人々の心情に触れます。



出雲大社并神楽園(部分) 千家家蔵

■企画展

いわみもの

2016年7月22日(金)～9月25日(日)

※会期中の休館日/8月16日・9月20日

石見焼を中心に石州瓦など石見地方のものづくりについても紹介します。



■特別展

「日本のわざと美」展

2016年10月14日(金)～11月20日(日)

※会期中の休館日/10月18日・11月15日

※11月1日は展示替えのため特別展は休み

陶芸、染織、漆芸、金工、木竹工、人形、手漉和紙などの人間国宝の作品を中心に展示します。



■常設展・期間限定展示

「めでたい！」展(仮)

2016年12月23日(金)～2017年1月29日(日)

※会期中の休館日/1月17日

館藏品を中心に「めでたい」をテーマにした、お正月にふさわしいめでたい尽くしの展覧会。絵巻、浮世絵、引札、工芸、彫刻、考古資料など盛りだくさんの作品が並びます。



■開館時間/9:00～18:00(11月～2月は9:00～17:00) ■休館日/毎月第3火曜日(5月は第4火曜日が休館)

■常設展観覧料/一般610円・大学生410円・小中高生200円

■特別展、企画展観覧料は、その都度ご案内します。ポスター、チラシ、ホームページなどでご確認ください。



島根県立古代出雲歴史博物館 出雲大社東隣り

〒699-0701 島根県出雲市大社町竹葉東 99-4
TEL.0853-53-8600 FAX.0853-53-5350
http://www.izm.jp

企画展

「いわみもの」

開催期間：平成28年7月22日(金)～9月25日(日) 休館日 8月16日(火)、9月20日(火)

開催場所：島根県立古代出雲歴史博物館 特別展示室

開館時間：9:00～18:00

7月22日(金)は企画展開会式のため特別展示室のみ10:00開場となります。

主催：島根県立古代出雲歴史博物館・島根県古代文化センター



※「いわみもの」は新しい言葉です。この夏、開催する展覧会では、石見焼とそれにまつわるものをこう呼びます。

右：芹澤銈介
《手仕事の日本 挿絵原画 石見喜阿弥 糊壺》
日本民藝館所蔵

「石見焼」は島根県の西部「石見地域」において、江戸時代後期から作られている生活陶器のことです。製品のなかでも「はんど(はんどう)」と呼ばれる赤茶色の甕はとくに有名で、石見焼の代名詞ともなっています。

この石見焼がいつ、どこで、どのような技術を用いて誕生したのか。そして、明治時代の文明開化・博覧会の時代から大正時代の大量消費社会の到来へ、変化する社会状況のなかで、どのように生産量を増やし販路を拡大していったのか。

古代文化センターでは平成25～27年度、テーマ研究事業「近世・近代の石見焼の研究」において、こうした研究課題に取り組みました。本展覧会では、考古学・文献史学の研究成果にくわえて、石見焼と民藝運動の関わり、石見焼・石州瓦によって作り出された景観に対するまなざしについても紹介する予定です。

長い歴史と伝統をもち、いまでも私たちの暮らし・日常のなかにしっかりと根づいている「いわみもの」。地域ブランドとゆたかな暮らしのありかたについても、あらためて見直す展覧会にしたいと考えています。



石見焼の代表的製品 甕「はんど(はんどう)」島根県埋蔵文化財調査センター所蔵

手前から飯田A遺跡(江津市)・御崎谷遺跡(隠岐の島町)・上府八反原窯跡(浜田市)



大田市温泉津町の窯場で使用されていた印章類 温泉津やきもの館所蔵

石見焼のなかには底面に「石見焼■製」(■に各窯の商標)の刻印が押されたものがある



底面に窯印(工場印)・器種・容量・等級が墨で書かれた蓋壺

これとまったく同じものが、鹿児島県始良市と京都府京丹後市でも見つまっている

古代出雲歴博は出雲農林高校と連携します。

島根県立古代出雲歴史博物館 交流普及課長 角 田 徳 幸

古代出雲歴史博物館は、豊かな歴史文化に接していただくことを通して、郷土への誇りと愛着をもった人づくりを目指しています。そのためには、多くの皆さんに来館してもらえるよう、親しみのある開かれた博物館になるよう心がけています。

そうした取り組みの一つとして、古代出雲歴史博物館は出雲農林高校と連携することになりました。この連携は、出雲農林高校でのふるさと学習を歴博が積極的にお手伝いすること、出雲農林高校の生徒さんの学習成果を発表する場を歴博が提供することなどを目的としたものです。

10月11日には、「歴博秋まつり2015」に先立って、出雲農林高校と古代出雲歴史博物館との連携について記した覚書の交換式を行いました。会場となった歴博中央ロビーでは、今後の連携をになう出雲農林高校の生徒さんが集まり、生徒会・農業クラブ・家庭クラブの各会長さん、校長先生、当館館長が覚書に署名しました。覚書の交換の後には、生徒会長の栗原拓巳さんから「古代出雲の始まりは農耕であり、連携は意義深い。自分たちの活動の幅も広がるので連携して良かったと思ってもらえるよう取り組みたい」という挨拶もありました。どのような連携にしていくのか、内容の具体化はこれからですが、出雲農林高校との息の長い交流によって地域に親しまれる博物館にしていきたいと思っています。



古代出雲歴史博物館と出雲農林高校の連携覚書の交換



「歴博秋まつり2015」への参加（左：移動動物園、右：太鼓部公演）

島根県古代文化センターの調査研究・情報発信事業について

古代文化センター 専門研究員 平石 充

■第3回古代歴史文化賞の決定

この賞は、平成25年から島根県をはじめとする古代歴史文化にゆかりの深い奈良、三重、和歌山（平成26年度より）、宮崎の5県共同で古代歴史文化に関する優れた書籍を表彰するものです。第3回目となる今年は11月4日に東京帝国ホテルで賞の選定委員会が開かれ、大賞1作品、優秀作品賞4作品が選ばれました。

大賞は、瀬川拓郎氏の『アイヌ学入門』（講談社）です。この本は、アイヌ文化が他地域との交流や時代によって変容してきたいろいろな性格をもつ複合的な文化であることを、考古学や古い文献、またアイヌの民俗や言語などから検討し明らかにしています。この本で語られている多様性を持つダイナミックで斬新なアイヌ像は、従来の研究になかった豊かな民族の姿です。本書を読むことで、日本の文化や民族の形成、また古代文化がどのように現在に継承されているのか考えさせられる優れた作品です。

優秀作品賞には、森郁夫氏の『一瓦一説 瓦からみる日本古代史』（淡交社）・若狭徹『東国から読み解く古墳時代』（吉川弘文館）・山本淳子『平安人の心で「源氏物語」を読む』（朝日新聞出版）・小川靖彦『万葉集と日本人』（KADOKAWA）の4作品が選ばれました。

また、古代歴史文化に関する人々の関心を高めた功績に対し、古代出雲歴史博物館名誉館長の上田正昭氏に特別賞が贈呈されました。



■古代文化連続講座記録集『古代出雲ゼミナールⅡ』刊行！

好評につき重版となった古代文化連続講座記録集『古代出雲ゼミナール』の第2弾が刊行されました！平成26年度に島根県古代文化センターが東京・大阪・松江で開催した古代出雲に関する講座から選りすぐってコンパクトにまとめた講演録です。内容は

- ①三浦佑之「出雲神話の真実—古事記が語る古代世界—」
- ②森田喜久男「古代王権と出雲—神話と儀礼の分析から—」
- ③池淵俊一「遺跡からみた五世紀の出雲と王権」
- ④古市晃「記紀・風土記伝承が語る出雲と葛城」
- ⑤平石充「風土記説話と出雲の地域社会」
- ⑥吉松大志「土地の名を語る風土記—出雲にあふれる話す神、坐す神—」
- ⑦兼岡理恵「読み継がれる風土記—風土記はいかに伝えられたか—」

の7本。上代文学・古代史・考古学研究の第一人者が、最新の研究成果を存分に語り、図や写真をふんだんに使って読みやすく理解しやすい内容となっています。

ハーベスト出版から税込1,080円で一般販売されていますが、島根県文化財愛護協会（TEL：0852-22-6612）でも実費頒布しています。またお近くの書店やインターネット通販でもお取り扱いしています。ぜひお買い求めください！



2016年 イベントスケジュール

☆3月6日(日) 開館9周年記念イベント「れきはくであそぼ」



時間：10：00～16：00 場所：島根県立古代出雲歴史博物館 講義室
イベント内容

【れきはく紙しばい】 アテンダント手作りの紙芝居を上演
10：30～ 「青銅器大発見物語 荒神谷のキセキ」
11：30～ 「古事記ってなあに？」+クイズ
13：00～ 歴博の見どころを「楽しく」紹介+クイズ
14：00～ 新作！「神門通り物語」
富くじを引いて景品が当たります



【作って楽しくあそぼ】 ①マラカスを作ってみよう
②ニョキニョキもくもく何が出る？
③飛び出すカードづくり

【スタンプラリー】 スタンプを全部集めて景品をゲット

【楽しくあそぼ】 木のおもちゃであそぼ
パズルであそぼ

【Wポイント】 ミュージウムパスポート「Wポイントサービス」

☆3月20日(日) 藍染体験

ハンカチをオリジナルの文様に染めてみよう

時間：10：00～12：00／13：00～15：00

場所：島根県立古代出雲歴史博物館 体験工房 定員：各回20名

体験料：300円 要申込

☆6月初旬 体験水田「田植え」

歴博の体験水田で古代米の田植え体験です。

☆7月24日(日) 夏の体験楽「夏まつり」

子供から大人まで楽しめる体験メニューを用意して皆様の参加をお待ちしております。

☆10月9日(日) 秋の体験楽「秋まつり」

出雲農林高校の移動動物園や太鼓パフォーマンス、チャレンジショップや、秋にふさわしい体験やコンサートなど予定しています。

☆10月中旬 体験水田「稲刈り」

6月に植えた古代米を昔の道具も使って刈りとります。さらに「はで干し」にチャレンジ。

昨年収穫した古代米の試食もあります。



※今後、日時や内容が変更になることもあります。
詳しくは内容が決まり次第、HP等にてお知らせします。

発行／平成28年2月



島根県立古代出雲歴史博物館
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350
URL : <http://www.izm.ed.jp> E-mail : contact@izm.ed.jp
開館時間 9:00～18:00(11月～2月は、9:00～17:00)



マスコットキャラクター
雲太くん



マスコットキャラクター
出雲ちゃん